**ハンドマイク街頭演説原稿例　　野党共闘・給付金・公約実現**

二〇二一年一一月一二日　日本共産党埼玉県委員会・作成

ご近所のみなさん、こんにちは。日本共産党です。本日はこの場所をお借りして、日本共産党の政策を訴えさせていただきます。しばらくの間ご協力をお願いいたします。

　みなさん、先の総選挙の結果をみて、一部のメディアが「野党共闘は失敗」などと伝えています。自公政権の継続を許したことは本当に残念であり、私たちの力不足を痛感しています。しかし、今回、政権交代をめざして野党４党が共闘したことは、初めてのチャレンジとして大きな歴史的意義があったと考えています。実際に、野党共闘の成果は、総選挙の結果にもあらわれました。東京８区をはじめ、５９の小選挙区で一本化した野党候補が激戦を勝ち抜きました。加えて、３３の小選挙区で野党候補が自民党候補をあと一歩にまで追い詰めました。県内でも、野党共闘の候補が勝利した選挙区は２つから３つに増えました。埼玉１０区のように小選挙区では敗れたものの、比例で復活当選した選挙区もあります。初めての野党共闘には、様々な課題もありましたが、政権与党にとっては大きな脅威となったと確信します。国民の声を聞かない自民・公明の政治がいつまでも続いていいはずがありません。日本の政治を変える道は、共闘しかない。日本共産党は、今後も誠実に市民と野党の共闘の発展に力を尽くしてがんばります。来年の参院選選挙では、いまの自民党政治を変えたいと願うすべての人々と力をあわせ、埼玉選挙区で何としても勝利する決意です。今後とも、みなさんのご支援をよろしくお願いします。

みなさん、第二次岸田内閣が誕生しましたが、早くも様々な問題が出ています。まず、コロナ対策の給付金ですが、１人暮らしの方は給与所得が１００万円以上だともらえません。支給条件があまりにも厳しく、中間所得層も含めてコロナで困っている人の多くにお金が届きません。事業者への給付金も、まともな理由もなく前回の半分の支給額となっています。さらに、マイナンバーカード取得をポイント付与の条件にし、個人情報と引き換えに支援するようなやり方も重大です。日本共産党は、個人向けの給付金は、生活に困っている人、コロナで収入が減った人を広く対象にして１人１０万円を基本に「暮らし応援給付金」を支給すべきと提案しています。さらに、持続化給付金・家賃支援給付金の第二弾を前回同様に支給することを政府に強く求めていきます。

「新しい資本主義」など岸田政権の目新しい政策も、これまでの大企業優遇の経済政策と大本ではほとんど変わらないことが明らかになりつつあります。各国が気候危機への対策を話し合う「ＣＯＰ２６」で、日本政府は、環境ＮＧＯから「化石賞」を贈られました。石炭火力発電の使用継続など、消極姿勢はただちにあらためるべきです。国民の多数が認める選択的夫婦別姓の導入にも岸田首相は後ろ向きのままです。さらに、維新の会が改憲をあおり、自民党も同調するなど、憲法９条を変えるための憲法改悪の動きも決して見過ごすことはできません。日本共産党は、憲法を守り、「気候危機打開」「ジェンダー平等社会の実現」など「４つのチェンジ」実現めざしてみなさんと力を合わせていきます。

最後に、日本共産党へのご支援を重ねてお願いするとともに、スクープ連発で注目をあつめる「しんぶん赤旗」を、この機会にぜひご購読いただきますようお願いいたしまして、この場所をお借りしての日本共産党の政策の訴えを終わります。ご協力ありがとうございました。（了）